



酒匂川の清流

令和3年10月1日(金)発行

校長 津田 将美

歴史から学ぶ

貴重な写真をいただきました。開成町在住の大脇良夫様より、いただいたものですが、小田急線全線開通時のものだという事です。

今から94年前、昭和2年(1927年)のことでした。開通したばかりの小田急線はまだ単線で(複線に見えますが手前は準備中の線路だということです)、そのとなりに十文字橋がかかっているのは今といっしょですが、見わたす風景はかなり違います。



手前の木々が生い茂ったところが寒田神社で、その隣にある松田小学校は現在と同じ位置にあります。その後、校舎の大修繕、増改築がされながら、昭和29年に北校舎、南校舎と称し新校舎の使用が開始されます。この時の校舎は、昨年度までグラウンドがあった場所(現在工事施行中の場所)となりました。

現在の校舎は、また反対側に移築され、昭和48年(今から48年前)から使用が開始されました。

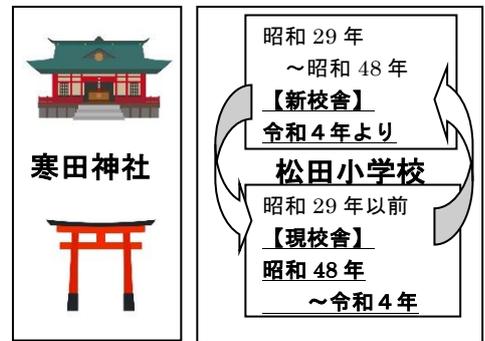
つまり、松田小学校は校舎とグラウンドを入れ替えながら、歴史をつないできたこととなります。(右図参照)

新築中の校舎は、令和4年2月からの使用となりますが、このように振り返ってみると、歴史や伝統のつながりを感じ、感慨深いものがあります。校舎建築がそのような長い歴史と多くの卒業生や教職員、そして地域の願いや想いと

つながっていると思うと、歴史の瞬間に立ち会えることの喜びと共に責任も感じます。子どもたちや職員に不便をかけ続けていますが、校舎建築が松田小学校にとって、前向きな気持ちの積み重ねとなるよう努めていきたいと思えます。

話を写真にもどします。酒匂川の対岸、今の自動車学校があるあたりが二重の堤になっているのが確認できると思います。これは「かすみ堤」といって、大雨の時に水を引き込むはたらきがあったということです。先人の知恵が災害を防ぎ、人々の命や生活を守っていたことが実感できます。このことは、大脇さんが会長を務めていられた足柄歴史再発見クラブ編集・発行の「富士山と酒匂川」に記されています。松田小学校にも一学年分の冊数を寄付していただき、4年生の文命堤等の学習に活用されています。

多くの人々の善意と絶えまない不断の努力が、今の私たちの豊かな生活につながっていることを知ることは、自分自身を見つめ直し、より良く生きようとするにつながっていくのだと思います。



学校だより第3号でお知らせしたように、9月27日（月）と10月1日（金）に、町有木材を使用した新校舎昇降口のオブジェ制作のワークショップが行われました。27日は1～3年生、1日は4～6年生でした。

各クラス3つに分かれたグループには、それぞれ前田建設の担当の方が指導についてくださって、長方形の板に町産の木材を貼っていく活動を行いました。



上図の四角に示した壁に、令和3年度の全校児童が制作したオブジェが飾られ、長い歴史の一部となっていきます。特にトップバッターで活動した1年生は、慣れない初めての活動に最初のうちはてこずっているようでしたが、慣れるにしたがって、意欲的に活動するようになっていきました。どの学年の子どもたちも、目を輝かせて、未来への制作に一生懸命になることができたようです。

グラウンドのない不便な生活が続きますが、このような活動を通して、希望を膨らませながら新校舎の完成を待ちたいと思います。



松田小学校の歴史について

学校だより第10号では、松田小学校の歴史についてふれました。今回の内容の根拠資料は、前述の大脇さんの写真と学校に保存されていた「開校百年記念誌」です。ご家庭の皆様や地域の方々に、更に詳しい事柄をご存知の方や、当時の様子がわかる資料などお持ちの方がいられましたら、教えていただくと参考になります。よろしくお願いいたします。

担任の代わりに、給食から5時間目にかけて1年生の教室に入りました。町の学習支援員さんのご好意で給食の配膳支援にも入っていただいているので、配膳の時間はある意味安心です。今回はそれ以上に、1年生の子どもたちの成長を感じました。

自分たちのやるべきことがわかっていて、手洗い・消毒をしっかりとした後に、それぞれの仕事に主体的に取り組んでいます。私はわからないことが多いので、子どもたちに何か聞かれてもおろおろするばかりなのですが、私の代わりに友だちに教えてあげる姿に、感動するばかり。食事中は注意することもほとんどなく、給食はとってもおいしかったので、感動は更に大きくなりました。

給食も無事に終わり、昼休みが過ぎ、掃除の時間が近くなってきました。昨年度に引き続き、例年行われている全校での交流清掃は中止となりましたが、1年生と6年生、2年生と5年生の交流清掃は行っています。

掃除が始まる前に、何人かの6年生が早めに1年生の教室に来てくれたので、私もホッと一安心のその時でした。

6年生が1年生に近づき、やさしく声をかけます。

「鼻が出てるよ。マスク、ちゃんとしようね。」

「うん。」

その子は、何人かに声をかけ、掃除を始める準備にとりかかりました。

何だか、とてもあたたかい、ほのぼのとした雰囲気とその場が包まれました。「コロナ禍であるので交流清掃は一切行わない」という判断もできましたが、職員のコロナ禍だからこそできることはさせていきたい、という願いのもと、今年度のような形の清掃になっています。その中で、感染症から自分たちを守る意識やスキルをたくましく身に付けてきている子どもたちをとても頼もしく感じました。

10月より緊急事態宣言が解除されます。

そのことに気を緩めることなく、自分たちがやるべきこと、やることができることを子どもたちと共に考えていきたいと思います。

